

平成21年10月14日
原子力安全対策課
(21-45)
<15時記者発表>

敦賀発電所1号機の定期検査状況について (高圧注水系ディーゼル冷却用海水配管の減肉)

このことについて、日本原子力発電株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

敦賀発電所1号機（沸騰水型軽水炉；定格出力35.7万kW）は、第32回定期検査中（平成20年11月7日開始）のところ、タービン建屋1階の高圧注水系ディーゼル室において、高圧注水系ディーゼル冷却用海水配管^{*1}の肉厚測定を実施したところ、ディーゼル機関の冷却水を冷却するための冷却器入口海水配管の一部に必要最小厚さ（3.4mm；管の外径に応じて定められる管の厚さ）を満足しない部位が1箇所（2.8mm）確認された。なお、当該部以外で必要最小厚さを下回る箇所は確認されなかった。

その後、当該配管を調査機関にて詳細点検した結果、肉厚測定において必要最小厚さを下回った箇所に減肉が確認された。

今後、海水配管が減肉した原因について調査を行う。

この事象による周辺環境への影響はない。

※1 高圧注水系は、原子炉水位が低下した場合、原子炉内に冷却水を注入するための系統で、通常は待機状態にある。

海水配管は、ディーゼル機関の冷却水を冷却するために冷却器が設けられており、その冷却器を海水にて冷やすために設置されている。

(経済産業省によるINESの暫定評価尺度)

基準1	基準2	基準3	評価レベル
—	—	0—	0—

INES：国際原子力事象評価尺度

問い合わせ先(担当：吉田)
内線2352・直通0776(20)0314

高圧注水系ディーゼル冷却用海水配管系統概要

